



連載

ビブリオ・トーク

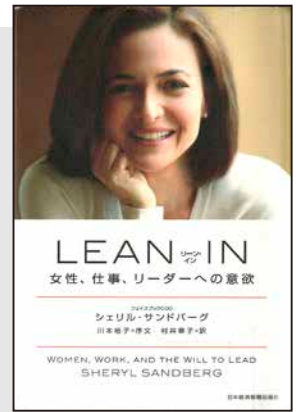
—私のオススメ—

→ 五十嵐悠紀 (明治大学)

LEAN IN (リーン・イン) 女性, 仕事, リーダーへの意欲

シェリル・サンドバーグ 著 村井章子 訳

(株)日本経済新聞出版社 (2013), 304p., 1,600 円+税, ISBN: 978-4-532-31897-0



男性にも読んでほしい 1 冊

このビブリオ・トークのコーナーは密かに毎回楽しみにしています。これまでに読んだことのない新たな本との出会いとなるのはもちろんのこと、同じようなキャリアを積んできた研究者の方々の“きっかけになった本”を知る機会でもあるからです。“情報学を志すきっかけになった本”, “絶版となっているが素晴らしい書”, “有名な教授が書いた書籍”, などなど…。私は一風変えて, キャリア形成やそれに対する悩み, ワーク・ライフ・バランスについて書かれたこの1冊を挙げてみます。

サブタイトルでは「女性, 仕事, リーダーへの意欲」とあり, 女性が読むべき本だろう, と誤解されることも多いですが, 女性だけでなく, ぜひとも男性やこれから社会に出る学生さんにも読んでほしいです。「多様性」や「女性の活躍支援」を掲げるような会社や組織が何を意識していかななくてはいけないか, 気づかされるのではないのでしょうか。

著者であるシェリル・サンドバーグ (Sheryl Kara Sandberg) 氏はフェイスブックのCOO (最高執行責任者) です。そして2人の子供をもつ, お母さんでもあります。そんな彼女が, 仕事も家庭も日々働く女性にありがちな悩みについて, さまざまな自身の体験した具体例を挙げながら, いろいろと周囲の状況を調べた上で客観的なデータを示しながら執筆されています。フォーチュン誌の「世界で最も有力な女性50人」, タイム誌の「世界で最も影響力のある100人」にも選出されたシェリル。そんな彼女でも, 私と同じ悩みを持つ女性だと少し読んだだけで気づかされます。

本書の内容紹介

1章では, 女性が直面しているさまざまな問題を明らかにしてあります。続く章では, 私たちが自分自身でできることに焦点を合わせて紹介されていきます。自信をつけること (2章), 先々のことまで心配しすぎないこと (7章), パートナーにもっと家で活躍してもらうこと (8章), すべてを完璧にやるという実行不能な基準を決めないこと (9章) …。

たとえば, 「会議でテーブルに着くのを遠慮し, 部屋の隅に行く女性達」「ハイディとハワード実験 (男性名と女性名では同じキャリアでも男性の方が好ましい同僚と見なされる)」「インポスターシンドロームにかかりやすい女性達 (成功しているにもかかわらず自分を過小評価してしまう現象)」「ティアラシンドロームにかかりやすい女性達 (良い仕事をすればきっと誰かがティアラを被せてくれると期待する傾向)」などなど。分かりやすい事例が次々に出されていきます。

こういった悩みには完璧な答えなんてどこにもありません。ただ, 著者は統計データを挙げ, 学問的な研究を援用しつつ, 彼女自身が目にしてきたことや学んだ教訓を紹介してあります。ぜひ, 「うちの職場にはこんな悩みを持つ女性はいない」と思わずに, シェリルが自分の部署や研究室にいて, 読んでみてください。

大事なものは声を上げるだけでなく, 自分自身の意識改革

内閣府男女共同参画局^{☆1}では, 働く女性のため

☆1 <http://www.gender.go.jp/index.html>

の政策や支援，企業の支援，女子学生のためのイベントなど多岐にわたって「男女共同参画」といった視点で情報をまとめ，配信しています。男女分け隔てなく働ける職場にするために，今，何が求められているのでしょうか？

先日私は，男女共同参画への大学の取り組みをテーマとした講演会に行きました。そこに出席していたのは学部長クラスの男性の先生方がほとんど。質疑応答の時間にはそれこそ，最初は質問が出なかったのですが，意を決して手を挙げ，普段の学内業務で困っていること，改善してほしいこと，他大学や他の企業ですでに導入されている制度や取り組みの具体例を述べさせていただきました。

声をあげて，制度を変えていくこと自体，大事なことであります。実際に，出席していたほかの女性の方々には「こうやって具体的な声を上げることがとても大事なのです。ありがとうございます」とも言われました。しかし，シェリルの主張は違います。「女性が自らを変える」これが私の心には一番，響きました。人の考え方や制度を変えるには時間がかかります。けれど，自分が変わるのは今すぐにもできます。会議でテーブルに着くのを遠慮せずに，男性と同じ席に着く。完璧な母親をと全部自分でやっていたのを少し外注してみる。私にとっては，そんな，一歩前へ踏み出す勇気をもった本だったのです。

私は女子大出身なので身の回りに女性の先輩たちがたくさんいました。今は女性の学科長の下で働いています。そんなありがたい現状にありながらも，常に自分の仕事とプライベートの狭間で悩み続けています。まずこの本を読んだときに感じたのは，「(日本だけでなく)世界に目を向けてみても，こんなに素晴らしい仕事で大活躍している女性ですらこういった同じ悩みを抱えているんだ」という安心感でした。しかし，それではダメだと気づかされます。そういった女性特有の「私もよ〜」「そうだよ〜」という同情をしている場合ではないのです。「自分が変わればできること」を常に意識して，仕事とプライベートを充実させていきたいと思えます。

本を読む時間がない！ 読書は苦手！ という人は，彼女がTEDと呼ばれる世界的に有名なカンファレンスで話した動画があるのでそれをぜひご覧ください。

<http://digitalcast.jp/v/11752/>

(2016年1月21日受付)

五十嵐悠紀 (正会員) yukim@acm.org

2010年東京大学工学系研究科修了。博士(工学)。2010年より日本学術振興会特別研究員PD, RPD(筑波大学)。2015年より明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科専任講師。Yahoo! ニュース個人オーナー。専門はCG。

